

水野伸也研究主任 平成 23 年度「日本農学進歩賞」を受賞

平成 23 年 10 月初旬、さけます・内水面水産試験場内水面資源部内水面研究グループの水野伸也研究主任に、財団法人農学会会長から平成 23 年度（第 10 回）「日本農学進歩賞」の授賞決定の通知があり、同年 11 月 21 日に受賞式および受賞講演会が東京大学弥生講堂にて開催されました。日本農学進歩賞は、「人類と多様な生態系が永続的に共生するための基盤である農林水産業およびその関連産業の発展に資するために、農学の進歩に顕著な貢献をした 40 歳未満の者」に授与される賞であり、平成 23 年度は水野氏を含め 11 名が受賞しました。水産分野の研究で過去に受賞した 8 名はすべて国立大学あるいは国立研究機関に所属しており、地方水産研究機関所属者の受賞は初の快挙となります。受賞業績題目は、「サケ科及びキュウリウオ科魚類の種苗生産技術向上に関する研究」で、水野氏が北海道大学水産学部、同大学院水産学研究科、北海道立水産孵化場から北海道立総合研究機構（現在）に至るまでに取組みられた一連の研究成果です。

水野氏は、北海道大学在籍中に分子生物学、生理学、生化学、電子顕微鏡学的手技を習得、日本学術



写真 1 日本農学進歩賞受賞講演

振興会特別研究員（DC1）に採用され、「サクラマス銀化変態の内分泌制御機構に関する研究」に携わりました。水産孵化場に入庁以後、大学で習得した専門知識、実験的手技を駆使し、これまで一貫して、さけます内水面漁業対象種の種苗生産技術向上の研究に取り組んできました。その結果、同氏はサクラマス、サケ、シシャモおよびワカサギで種苗生産技術向上に成功し、現在では本成果が北海道内の民間ふ化場で種苗放流や稚魚の健康診断に活用されています。これらの研究成果は学会および道総研でも高く評価され、平成 21 年 3 月に平成 21 年度日本水産学会「水産学奨励賞」、平成 22 年 11 月に平成 22 年度北海道立総合研究機構理事長表彰を同氏は受けています。近年では、文部科学省科学研究費補助金に 3 度採択されており、研究業績を着実に積んでいる研究員の一人です。これからも益々の科学技術の発展、水産業貢献に向けて活躍されることを祈念いたします。

（小出展久 さけます内水試内水面資源部）



写真 2 日本農学進歩賞受賞祝賀会

（左から東京海洋大学 佐藤秀一教授、東京大学 渡部終五教授（現 日本水産学会会長）、水野氏、東京海洋大学 竹内俊郎教授（平成 23 年度日本水産学会会長））